

PDF 版 : <http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/koho/kanpo/>

目 次

データベースと業績評価 (ぶっくぼすと No.10)	数理科学研究科教授 河東泰之	55
附属図書館基本規則の改正について		57
東京大学総合研究博物館の収蔵コレクション (学内所蔵特殊コレクションシリーズ No.18)	総合研究博物館助手 佐々木猛智	58
「言選 Web」の世界		
経済学部図書館 前田朗・経済学部資料室助手 小島浩之・情報基盤センター教授 中川裕志		61
図書館は学習・研究活動をサポートします	情報基盤センター学術情報リテラシー係	66
Engineering Village 2 のご紹介		
情報基盤センター学術情報リテラシー係・工学系・情報理工学系等中央図書室		68
総合図書館ホームページが新しくなりました		70
柏図書館部分開館のお知らせ	柏図書館	71
6月～8月のデータベース定期講習会のお知らせ	情報基盤センター学術情報リテラシー係	73
新規導入データベースのお知らせ	情報基盤センター学術情報リテラシー係	74

ぶっくぼすと No.10

データベースと業績評価

大学院数理科学研究科教授 河東泰之

最近では学術研究論文や、その書誌データを集めたものの多くが電子化されており、研究上大変便利になった(私の専門である数学では、日本の学術雑誌がこの点でかなり出遅れているのは残念なことである)。自宅や外国にいても、必要な論文やその引用データがコンピュータ上で見られると言うのはすばらしいことである。特に、私は学術雑誌のエディターもやっているの、誰が誰の論文をどこで引用しているか、というのが簡単に調べられるのはとても便利である。本来の調べる目的は、レフェリーを頼むために関係する研究をしている人を探し、共著者や元先生などの仲間を避ける、ということなのだが、論文リストや引用データがずらっと出てくれば、この人は有

名雑誌に連発で書いているとか、この人の論文はろくに引用されていない、といったことがすぐにわかってしまう。だからといって、論文をアクセプトしたりリジェクトしたりするわけではないし、そういった印象とレフェリーの結論が違う例もよくあるが、最初の段階でいろいろな印象を受けることは確かである。また、最近では客観的な業績評価が重要だという声が高まっており、インパクトファクターとか、Citation Indexによる引用回数などが話題になってきている。(日本の)数学では従来こういうことはあまり問題にされておらず、インパクトファクター(平均的な論文の被引用回数を調べることにより雑誌に点数をつけてランキングが作られる)などは知らない

人の方が多かった(あるいは今でも多い?)と思われるが、最近はこちらで聞くようになった。また、数学論文の代表的データベースである、アメリカ数学会のMathSciNetが被引用件数のデータを2、3年前から表示するようになったり、このような業績の「数値評価」に対し日本数学会が声明を出したりしていることもあって、いろいろと興味を持つようになってきたのである。

この日本数学会の声明も含めてあちこちで言われていることは、数学はほかの多くの自然科学と論文を書くスタイルが違っており、そういうことを知らないまま一律に評価されると困る、ということである。すなわち、数学者は少ない人数の共著者で少ない数の長い論文を書く傾向があり、論文の数も被引用回数も他の自然科学よりずっと少ないということである。大学院生に何か指導しても、論文は大学院生単独名義で出版されることが多いというのもよく言われる。たとえば私は数学者としては論文の数が少ない方ではないと思うが、査読誌の論文数はこれまでに、最初の論文からの17年間に28本であり、そしてそのうち自分の指導中の大学院生と共著のものはゼロである。また、Nature、Science等に純粋数学の論文が載ることはまったくなく、普通の数学者はこれらの雑誌を知らないこともよくある。そして数学では世界最高といわれる雑誌でもインパクトファクターはNature、Scienceなどの十分の一以下であり、文字通り桁違いに低い。数学で世界最高の賞はフィールズ賞だが、フィールズ賞を取った論文でも新しいものや地味なテーマだと、被引用回数は10回くらいしかなかったりするのである。

そこでインパクトファクターや被引用回数を比べるときに、数学とその他の科学で同じ基準で比べないでくれというのはわかりやすいが、数学の中でもさらに分野に

よっていろいろ違いがある。論文をたくさん書く傾向の強い分野というのはあるし、また研究している人が多ければ、被引用回数が増えるのも道理である。そしてそのような分野の論文を多く載せれば、その雑誌のインパクトファクターは高くなるのである。直接応用にかかわるテーマであれば、どんなに難しくても実社会の需要によって研究しなくてはいけない問題はたくさんあり、だから研究者が多い分野というのはそれだけ重要なことをしているのだ、という考えにはそれなりの合理性があると思われるが、数学では重要だがとても難しいために正面から研究している人の少ないテーマというのはいくらでもあり、むしろ安直なテーマの方がすぐに論文が書けて業績が稼げるため人が多いということもよくある。もちろん重要なテーマでかつ人が多いということもよくあるが。

また、数学では共著論文の場合、著者をアルファベット順に並べるしきたりなのであるが、これがほかの自然科学で行われていることと違うというのも世界中でよく問題になる。そもそも数学では1人で書く論文が多いのでその場合は何も問題がないが、2～3人くらいの共著者からなる論文はそれなりにあり、そのような場合のファーストオーサーというのは単にアルファベット順で名前が最初に来たという意味しかないのである。なお、共著者が4人以上の論文というのはかなりまれであり、私が直接知っている数学の論文の共著者数の最大値は6人である。

さらに、これはあまり言われていないようであるが数学の場合、レフェリー、出版にとっても時間がかかる、という問題もある。自分の論文の経験で言うと、レフェリーにかかった時間の最長期間は3年(2回でいずれもアクセプト)、投稿から出版までの最長期間は5年(2回で、いずれの場合も私は一切改訂していない)である。私は工

ディターとしてはこういうことのないように注意しており、これまであまりひどい例はないが、しかしレフェリーの立場から言うと、数十ページの論文を送りつけられて一月や二月で正しいかどうかちゃんと読めなど言われても無理だ、というのももっともである。専門家であれば価値を判定するにはそれほど時間はかからないが、正しいかどうかの判定はしばしば大変である（これは昔からのことなので、プレプリントと称して自分の書いた論文を出版される前に、世界中の関係者に郵送するということがずっと行われてきた。今はe-mailでも送れるし、そのようなプレプリントをまとめておいておくサーバーも有名なものがあり便利になった）。そういうものでも数学者は普通に引用するのであるが、Citation

Indexというのは雑誌に載った論文について数えているので、出版前のものを引用しているのはカウントに入らないのである。さらに人によっては、すでに出版されていてもちゃんと調べるのが面倒で、自分はプレプリントを持っているのだから、といって単にプレプリントとして引用してしまう人もいる。逆にあまり早くアクセプトされて出版されてしまうと、それを引用した論文が印刷されるまで時間がかかるのでインパクトファクターの計算期間である2年以内に間に合わないということも起こる。数学は世界的に数学の中の仕組みで長年やってきたのであるが、一律の仕組みで評価される傾向が強まっているのでなかなか大変である。

(かわひがし やすゆき)

附属図書館基本規則の改正について

東京大学は、他の国立大学とともに、平成16年4月に国立大学法人となり、大学の運営のありかたや制度が大きく変わることになりました。

図書館に関しても、「東京大学附属図書館基本規則」が実に40年ぶりに改正されました。基本規則は、附属図書館の性格と組織について基本的事項を定めているものです。

今回の改正のポイントは、次の2点です。

- (1) 本学の歴史的経緯の中で形成された運営原則「連絡調整された分散主義」を「共働する一つのシステム」に転換しました。
- (2) 駒場図書館と柏図書館に対して、部局に属さない図書館というこれまでにない新しい位置づけを与えました。

基本規則の条文は、次のURLに掲載しています。

http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/koho/gaiyo/kihon_kisoku.html

学内所蔵特殊コレクションシリーズ No.18

東京大学総合研究博物館の収蔵コレクション

総合研究博物館助手 佐々木 猛智

総合研究博物館は、(1) 学術資料の収集・整理・保存、(2) 研究・教育、(3) 公開・展示、の3つの大きな機能を持つ全学的な組織である。本館は1966年に学内の学術資料の収集と研究を主な目的とする「総合研究資料館」として設立され、1996年に研究成果の公開の任務を併せ持つ「総合研究博物館」へと拡張された。そのため、本館は学内の研究教育の施設であるだけでなく、東京大学と一般社会とのつながりという点において重要な役割を持っている。

東京大学では日夜、大量の学術資料が生産され続けている。それらは、注意深く保存を心がけない限り、容易に散逸してしまう。一度失われた資料は、後から再検討の要請が生じた場合にも、二度と研究に用いることができない。そのため、貴重な学術標本を組織的に収蔵・管理し、同時にそれらの価値を明らかにするための研究・教育が必要である。そして、その成果を社会に還元することも大学の重要な責務であり、総合研究博物館はその一翼を担っている。

本館には、現時点で250万点を越える膨大な学術資料が収蔵されている。それらは下記の17分野の標本室に収蔵され、専門家

の手によって管理されている。250万点の標本は本館の限られた専任教官だけで管理し得る量をはるかに凌駕しており、そのため各標本室は学内の関係部局の教官の先生方のご協力を得ながら運営されている。

(1) 鉱物部門：地球上に知られているあらゆる種類の鉱物標本が収蔵されている。さらに、隕石の膨大なコレクションが収蔵されており、太陽系の起源を探る上での貴重な資料である。

(2) 岩石・鉱山鉱床部門：地球あるいは惑星を構成する岩石の膨大な試料が保存されている。鉱山学の関係では、地下資源の開発研究によって得られた試料が収蔵されている。

(3) 鉱山部門：工学系の研究室によって100年以上にわたり金属鉱床から集められた標本、鉱山に関する資料、機器類が保存されている。鉱山は採掘が終了した後は試料を得ることが困難であるため、歴史的にも高い価値を持つコレクションである。

(4) 地史古生物部門：カンブリア紀から現世にいたるまでの全ての時代の古生物標本が収蔵されている。特に、貝類をはじめ



図1 考古美術標本室の内部

とする無脊椎動物化石のタイプ標本の数が
多いことが特色である。

(5) 地理部門：地理学の研究のための試
料、特に地図、航空写真、過去の環境変動
を研究するための珊瑚礁のコアなどのサン
プルが収蔵されている。伊能忠敬が作成し
た地図を精密に模写した「伊能中図」は特
に有名である。

(6) 植物部門：The Herbarium of The
University of Tokyo (TI)として国際的に
知られている標本室であり、約170万点以
上の押し葉標本を収蔵している。戦前より
世界中の植物標本が収集され、特に1960年
以降はヒマラヤ・東アジアの植物の国際的
な研究拠点になっている。

(7) 森林植物部門：植物のうち、森林を
構成する植物を研究対象とする部門である。
樹木・木材の標本に加えて、シダ類やキノ
コ類の標本も研究対象になっている。巨大
な屋久杉の輪切り標本が収蔵されており、
その切断面には2000年を越える年輪を数

えることができる。

(8) 薬学部門：生薬の研究に必要となる
薬用植物の標本が収蔵されている。生薬の
乾燥標本と薬用植物の押し葉標本に加えて、
遺伝子資源の研究のための試料収集も行わ
れている。

(9) 動物部門：無脊椎動物から脊椎動物
にいたる全ての動物群の標本が含まれる。
特に魚類標本が充実しており、標本数は30
万点に達し、多くのタイプ標本が含まれる。

(10) 水産動物部門：水産学の研究のため
の動物コレクションであり、大多数が魚類
によって占められている。特にサメ類のコ
レクションは国内最大であり特色がある。
その他、海外の淡水魚のコレクションも充
実している。

(11) 人類先史部門：人類学教室によって
収集されてきた古人骨、動物骨、土器や石
器などの先史歴史時代の遺物が集められて
いる。「弥生式土器」の命名の基になった土
器をはじめとして、歴史的な文化財が多く、

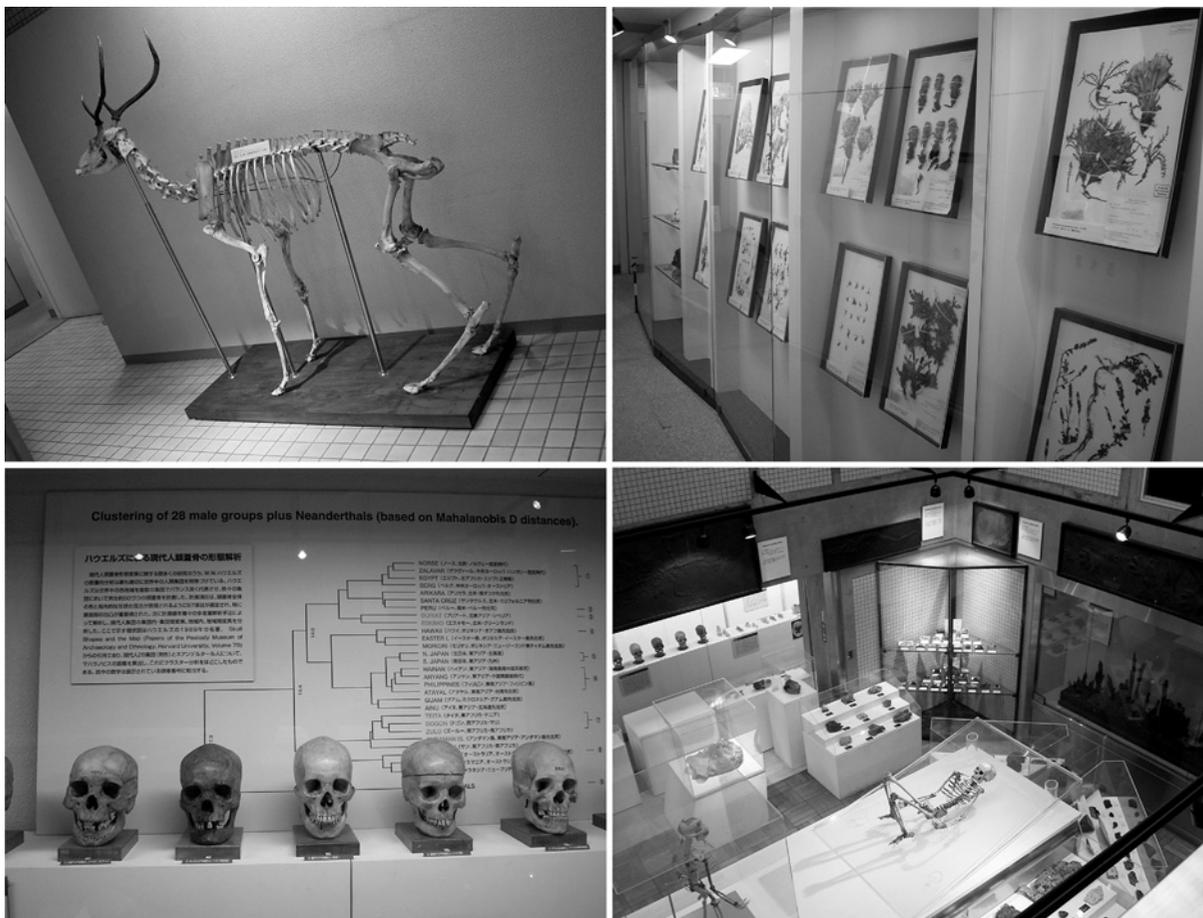


図2 展示室に展示中の標本

191点が重要文化財の指定を受けている。

(12) 医学部門：医学部の設立以来、教育・研究に活用され蓄積された標本が収蔵されている。多くの骨格、液浸標本を含む。脳のホルマリン浸標本コレクション、患部を型取りしてつくられた「ムラージュ」、エジプトのミイラ標本等の貴重な標本が多く収蔵されている。

(13) 考古部門：戦前から始められた考古学の発掘によって得られた資料が収蔵されている。国内各地の遺跡のみならず、戦前の朝鮮半島、中国大陸のから収集された資料も数多い。

(14) 建築史部門：建築の歴史に関する資料、特に寺社、城跡、仏像、古墳などについての資料が収蔵されている。戦前の朝鮮半島、中国から集められた貴重な資料を含んでいる。

(15) 考古美術部門：1956年に始められた東京大学イラク・イラン遺跡調査以来、西アジアの各地から集められた考古資料が大量に蓄積されている(58ページ図1)。現在この地域では遺跡資料を合法的に持ち出すことが認められていないため、二度と入手できないかけがえのないコレクションである。

(16) 美術史部門：歴史的に貴重な美術作品を収蔵している。中国、朝鮮の陶磁器、日本の絵画、掛軸、巻物などが含まれる。特に、狩野探幽の「探幽縮図」、法隆寺金堂

壁画が有名である。

(17) 文化人類部門：1958年に開始されたアンデス地帯学術調査以来、数々の海外学術調査によってもたらされた考古資料が収蔵されている。これらの調査は中南米の広大なフィールドの調査によって蓄積されたものであり、新大陸文明の形成過程を解明する上で重要な資料である。

上記の膨大なコレクションは日常は標本室に保管され非公開であるが、博物館1・2階には展示室があり(59ページ図2)、年に3回程の特別展を開催するほか、新規収蔵標本を紹介する小スペースもある。展示の予定は博物館のホームページ <http://www.um.u-tokyo.ac.jp/> に随時掲載されている。

さらに、2001年には小石川分館が開館した(図3)。分館の建物は旧東京医学校の建物をそのまま利用したもので、国内最古の学校建築として重要文化財に指定されている。2階建の建物の内部は大部分が展示室であり、歴史的な価値を持つ学術資料が展示されている。小石川分館は小石川植物園に併設されており、展示室からの眺めも抜群に美しい。是非一度足を運んでいただければ幸いである。

(ささき たけのり)



図3 小石川分館の外観と内部

「言選 Web」の世界

経済学部図書館	前田 朗
経済学部資料室助手	小島 浩之
情報基盤センター図書館電子化部門教授	中川 裕志

1. 「言選 Web」とハードボイルドな世界

たとえば、あなたが私立探偵だったとします。そこに『「言選 Web」の調査を行って欲しい』との依頼がきます。ハードボイルドなあなたは考えます。「言選 Web」とはなんだろうかと。

現代ではハードボイルドな探偵もインターネットを活用します。特に検索エンジンは情報収集に（ガセネタもありますが）もってこいです。「言選 Web」で検索すると、あるページがヒットしました。

<http://gensen.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/>

それが「言選 Web」のトップページの様です。正確には「専門用語（キーワード）自動抽出システムのページ」で、そのなかのひとつに「言選 Web」へのリンクがあります。あなたは迷わず「言選 Web」へのリンクをたどりませう。

「言選 Web」の Web ページを読むと、「言選」が「厳選」との語呂合わせであることが分かります。ハードボイルドを自認するあなたは、こんなことではずっこけません。読み続けると文章からキーワードを自動で取り出してくれるサービスであることが分かりました。

依頼人へのレポートの書き出しはこうなります。

「言選 Web は文章から専門用語を自動抽出するシステムである。」

Web が使える環境にあれば誰でも無償で使えるサービスである。

言選 Web にはファミリーとなるシステムがあり、改良しつづけられている」

少し心配性な探偵は、ふと気にかかります。（依頼人が解こうとしている謎はこれでよかったのだろうか・・・）

試しに、自分が過去に解決した事件のレポートを処理してみます。テキスト欄にそのままデータを入れても、探偵事務所 Web ページの URL を指定してもよいようです。すると「三四郎池迷子事件」、「赤門落物事件」などがリストの上位に表示されました。

どうやら単純に電子辞書に含まれる単語を文章中から抜き出しているのではないようです。どうやって動いているのか、なんだかハードボイルドな探偵では手に余る気がしてきました。

～システム開発者からのひとりごと～

「言選 Web」は東京大学情報基盤センター・中川教授、横浜国立大学・森助教授の研究理論を実装したシステムです。日本語の文章からの単語抽出に関しては「茶筌」、「案山子」といったソフトウェアがあります。ただし、お試しになれば分かるかと思いますが、単純に上記のソフトウェアで抽出した単語を出現頻度の多い順にランクづけするだけでは、あまりよい結果が得られません。このシステム最大のポイントは、いったん「茶筌」などで分割した単語を複合語に組み立てること、複合語をなす単語が「他の単語とどれだけ結びつくか」と複合語自体の出現頻度を掛け合わせて抽出用語のランク付けを行っていることにあります。

2. 「重要度」と鑑定士の世界

「言選 Web」の調査で悩みかけてしまった探偵さんですが、ここはもう少し頑張ってもらうことにいたしましょう。こんどの依頼は、文献の鑑定です。最近の探偵は鑑定士もやるのです、きっと。

依頼主から送られてきた文献はひとつ。学術雑誌に論文を投稿しようとしたところ、投稿規定に、なぜか「第三者が付与したキーワードを記載すること」と書かれていたそうです。そのキーワード付与が今回のお仕事です。世の中いろんな投稿規程があるものです。

不況のおりもあり、来る仕事は拒まずの探偵です。今回の仕事は自信ありです。「言選 Web」を使えばきっと楽ができます。

「言選 Web」のテキスト入力欄に、論文のテキストを貼り付け、プルダウンメニューの「重要度つき」を選びます。

いままでの処理結果はキーワードが羅列されるだけでしたが、今度はキーワードの右に数値がつくようになりました。この数値が重要度です。これが高いほど重要なキーワードになります。結果のうち重要度の数値が高い部分で、いくつかキーワードをみつくろいます。論文にざっと目をとおして、支障がないことを確認したら今回のお仕事は終わりです。この重要度の数値、小数点の値が出るところから、単なる文献中の用語の出現頻度というわけではないようです。それでも探偵は気にしません、重要度の秘密を探るのが今回の依頼ではありませんから・・・。

～システム開発者からのひとりごと～

重要度の計算方法については、特に秘密ではありません。「言選 Web」の中核をなす"TermExtract"については仕様を Web 上で公開しています。興味のあるかたは、ぜひご覧ください。

ご自身でお書きになった論文やレポートを、「言選 Web」にかけてみてはいかがでしょうか。

「言選 Web」の実際の画面はどのようになっているのか。それは文末の【付録】「言選 Web」の実験室”でご覧になれます。

3. "termmi" と偽造文書の世界

私立探偵をしているあなたは、論文の偽造事件を調査することになります。いくつかある論文のうち、ひとつが粗悪な偽物ということなのですが、はたして、解決できるでしょうか。

「言選 Web」は、文献のなかから重要なキーワードを示してくれますが、文献群のなかの個々の文献の特徴となるとやっかいです。文献をまとめて解析してくれるソフトウェアはどこかにないのでしょうか。世の中にはテキストマイニングツールといって、文献の解析を行うソフトウェアがあるそうです。でも、大概は高額なもので、あなたのような私立探偵では、お金を払えそうにありません。私立探偵の収入はさほど多くないのです。

悩んだあげく、「専門用語(キーワード)自動抽出のページ」にある、Windows用テキストマイニングツール"termmi"を使ってみることにしました。フリーに入手できる上、今回の目的には向いていそうです。

個々の文献を、別個のテキストファイルとして保存し、フォルダの中にまとめて入れます。そのフォルダを、"termmi"の実行用アイコンにドラッグします。

それにより、4種類のキーワード抽出結果がファイルに出力されます。個別の文献に対してのもの、文献群のなかで各文献に固有のもの、文献群共通のもの、文献群をひとまとめにしたものです。

これらの結果を見くらべていくと、他の論文に比べて特徴的な論文がわかってきました。結果をレポートにまとめて、後は専門家の判断にまかせます。テキストマイニングの結果を判断するのは、いつだって人間なのでありますから。

～システム開発者からのひとりごと～

"termmi"はWindows用のテキストマイニングツールです。これは、文献をそこから抽出したキーワードにより比較するものです。市販のテキストマイニングツールのよう、大規模な集計には向きません。しかし、何10件かの同テーマの文献を比較するには、向いていると思います。

もし、あなたが"TermExtract"の使いかたをマスターできれば、"termmi"とはまた違った自分専用のツールを作ることできます。

ぜひ、ご自身の研究やレポートの作成にご活用ください。

4. 「言選 Web」と外国語の世界

探偵が情報を得るためには、外国語に精通していることも重要になってきます。探偵業だって国際化の時代なのです。あなたも仕事の合間にラジオ講座で語学の勉強に励んでいますが、忙しくてなかなか上達しません。今日も中国人がメールで情報を送ってきました。もちろん長い中国語のメールなのですが、ハードボイルドなあなたは勉強不足でも全く動じません。「言選 Web」中文版を使うことで、その大意をすぐ理解できるからです。長い文章は苦手でも、多少の語学知識に加え辞書が引ければ、キーワードを理解するくらい大したことはないのです。

あれっ、今度は電話みたいです。受話器をとると相手は英語で話しかけてきました。

うろたえるあなた……。残念ながら「言選 Web」は音声には対応していません。やはり語学は地道な努力が必要なようです。

～システム開発者からのひとりごと～

「言選 Web」は英語と中国語（簡体字）にも対応しています。いずれも、日本語と同様に単語分割ソフトを利用するものと、ストップワード方式（予め指定された語句で文章を分割する方法）によるものの2種を提供しています。中国語に於いて、欧文言語の考え方であるストップワード方式を応用したことは注目に値します。中国語キーワードの切り出しを簡便な方法で行えるよう今後もストップワード方式の研究を進めるとともに、現在未対応の言語についても調整を進めています。

5. "TermExtract" とハッカーの世界

もし、あなたがプログラムを扱えたとします。この際ですからいっそハッカーということにいたしましょう。ハッカーであるあなたは、専門用語自動抽出 Perl モジュール "TermExtract" を見つけて、こう思うわけです。これで自前のテキストマイニングツールができる、と。

必要なドキュメントは、Web で公開されている上、"termmi" や "termex" のようなツールを作れることは実証済みです。なんだか、面白いものができそうな気がしてきました。

～システム開発者からのひとりごと～

"TermExtract" は、「言選 Web」、"termmi"、"termex" の中核をなす Perl モジュールです。これは、中川教授、森助教授が以前から研究に使っていた Perl スクリプトを参考にしています。しかし、"TermExtract" は拡張機能や仕様も含め、いろいろな面で最適化すべくほとんど一から作り直しました。

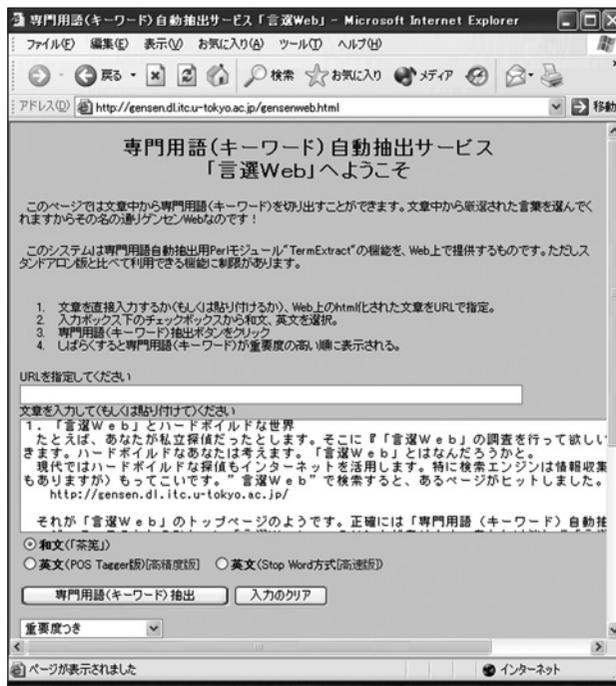
気がついたら設計から公開までに半年あまりかけ、200 回近くもバージョンアップを繰り返していました。「研究の副産物ではなく、製品として完成度を高めたものを作る」、そこに実務者（図書館職員）として、研究と実用サービスの間の橋渡しができる余地があると考えました。今回のプロジェクトはその実証も試みています。

また、"TermExtract" を元にした "termex" は東京大学経済学部図書館で Web 上の情報資源のデータベース構築（Engel <http://www.lib.e.u-tokyo.ac.jp/engel/>）に活用しています。一般利用者へのサービス、研究理論の実証、図書館業務のそれぞれに活用できる、まさに一石三鳥のプロジェクトといえそうです。

【付録】「言選 Web」の実験室

「言選 Web」の実験室へようこそ。ここでは「言選 Web」でいままでお読みいただいた文章（この原稿）がどのように処理されるかをご覧になれます。1）テキストボックスにこの原稿の文章を貼り付け、2）「重要度つき」を指定して、3）「専門用語（キーワード）自動抽出」ボタンをクリックします。

はたして結果はどのようなのでしょうか。それはこのページ下の結果一覧でご確認ください。



「言選 Web」のページ (<http://gensen.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gensenweb.html>)



言選 Web	256.16
探偵	30.98
キーワード	30.00
文献	26.83
Web	26.50
システム開発者	19.95
テキストマイニングツール	16.27
ひとりごと	12.25
私立探偵	11.77
言選	11.73
システム	11.22
専門用語	8.74
研究	8.66
単語	8.66
論文	8.00
文献群	7.98

上記実行結果の先頭 16 件（実際は Web ブラウザで結果表示されます）

（まえだ あきら / こじま ひろゆき / なかがわ ひろし）

図書館は学習・研究活動をサポートします

～データベース講習会などをご活用ください～

情報基盤センター 学術情報リテラシー係

現在、東京大学では100を越す数のデータベースを提供しています。それらのデータベースを学生、研究者の方々が効率的に使い、学習・研究に役立てていただくため、情報基盤センターでは、本郷キャンパスの総合図書館において、基本的なデータベースについてメニューをそろえて、年間70回以上のデータベース定期講習会を開催し、それぞれのデータベースの使い方のコツをご紹介します。

(<http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/dl/koshukai/index.html>)

また、このデータベース定期講習会のほかに、ご希望の日時、ご要望に応じた内容で授業や研究室に伺い、学習・研究に役立つ実践的な情報戦略構築のお手伝いをするデータベース出張講習会も承っております。

さらに各図書館(室)では、新学期のオリエンテーションなどで各図書館(室)が提供するサービスについてご紹介するほか、それぞれの専門分野に最適なデータベースの利用講習会を適宜、開催しております。

さて、最近では情報基盤センターのデータベース講習会を受講された方からいただくご意見・ご希望に、次のような内容が増えました。

- ・ 演習問題をもっとやりたい。
- ・ 具体的に自分のキーワードで調べて、アドバイスがほしい。
- ・ 個別ケースの指導時間がほしい。
- ・ 講習会の専門性を高めてほしい。



これらのご希望に対応するために情報基盤センターでは、個人向けのデータベース講習も企画しておりますが(<http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/dl/koshukai/kojin.html>)、このようなご要望にすぐに対応できるのは、各図書館(室)の図書館職員です。

読みたい本や雑誌が見つからないとき、研究テーマのキーワードで必要な論文が見つからないときは、お近くの図書館(室)のサービスカウンターにお尋ねください。附属図書館を構成する総合図書館、駒場図書館、柏図書館をはじめ55の図書館(室)に所属する200名を越す図書館職員が、皆様のご利用をお待ちしています。

様々な形で附属図書館と情報基盤センターは、東京大学の学習・研究活動をサポートするために活動しておりますので、学生、研究者の方々には是非、各図書館(室)や情報基盤センターが開催するデータベース講習会などをご活用いただき、学習・研究に役立ててください。日程などは本号の73ページをご覧ください。

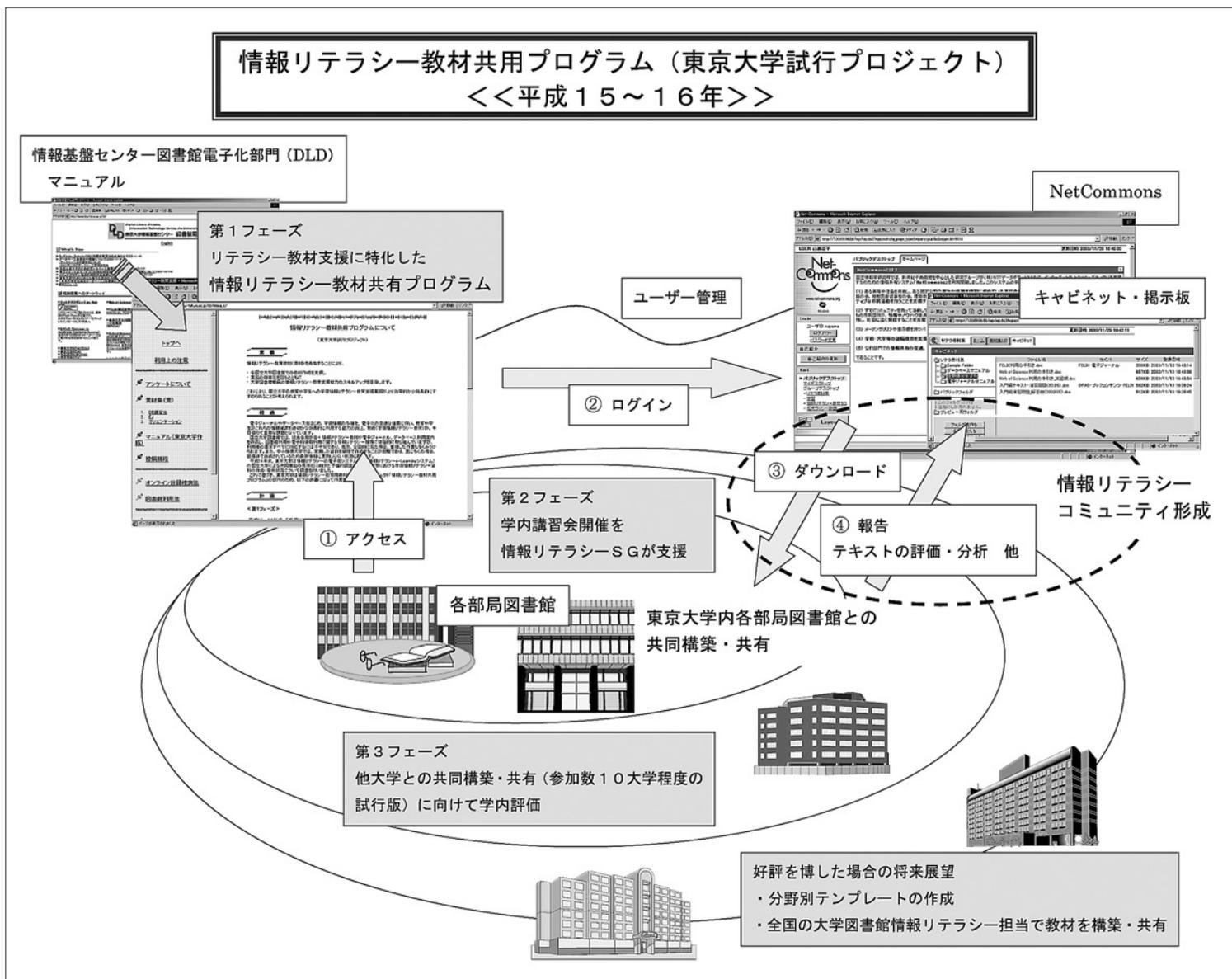
情報基盤センターでは、各図書館(室)のデータベース講習会開催を支援するため、「情報リテラシー教材共用プログラム」を提供しています(参考:下記コンセプトマップ)。

これはデータベース講習会テキストの素材集で、各図書館(室)による講習会テキストの作成を容易にするものです。ここには、情報基盤センターをはじめ、経済学部図書館、農学生命科学図書館が作成し、データベース講習会に利用している各種テキストを簡単に編集できる形で掲載しています。

このプログラムは、インターネット上のコミュニティ作りと情報共有を支援する「NetCommons」を利用しており、データベース講習会テキストの共同構築や学術情報リテラシー業務担当者間の意見の交換も行っています。

ご意見・ご要望、お問い合わせは、以下までお願いいたします。

情報基盤センター 学術情報リテラシー係 literacy@lib.u-tokyo.ac.jp



Engineering Village 2 のご紹介

情報基盤センター学術情報リテラシー係
工学系・情報理工学系等中央図書室

1 . Engineering Village 2 とは

Engineering Village 2 は理工学分野で定評のある2大データベース Compendex と INSPEC を、一つのインターフェースで検索可能にした検索ツールです。検索結果からフルテキストへのリンク機能も付いています。

また、特許情報や国際工業規格・工業仕様情報データベース、科学関連のWeb情報やエルゼビア社の電子ジャーナル・データベースを対象とする検索エンジンも搭載されています。

* Compendex

工学分野を幅広くカバーする書誌データベース。約 5,000 誌の雑誌、会議録、技術報告書を収録対象とし、1969 年以降の約 700 万件のレコードを収録しています。

(Elsevier Engineering Information Inc. 製作)

* INSPEC

物理学、電気・電子工学、コンピュータ・サイエンス、情報技術分野をカバーする書誌データベース。約 3,500 誌の雑誌、約 1,500 誌の会議録を収録対象とし、1969 年以降の約 700 万件のレコードを収録しています。

(英国 Institution of Electrical Engineers 製作)

以下では、Compendex を例に Engineering Village 2 の利用方法をご紹介します。

2 . アクセス方法

学内の端末ならどこからでもご利用いただけます。情報基盤センターの 'GACoS (http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/dl/gacos/index.html) のメニューから「論文を探す」「自然科学分野(Natural Sciences Fields)」「Engineering Village 2(Compendex, INSPEC)」の順序でアクセスをしてください。

3 . 検索の方法

検索の方法には "Quick Search" と "Expert Search" の2種類がありますが、ここでは "Quick Search" について説明をします。

(1) Engineering Village 2 にアクセスすると "Quick Search" 画面 (図1 参照) が現れます。"SELECT DATABASE" のプルダウンメニューを利用して "Compendex" を選択してください。

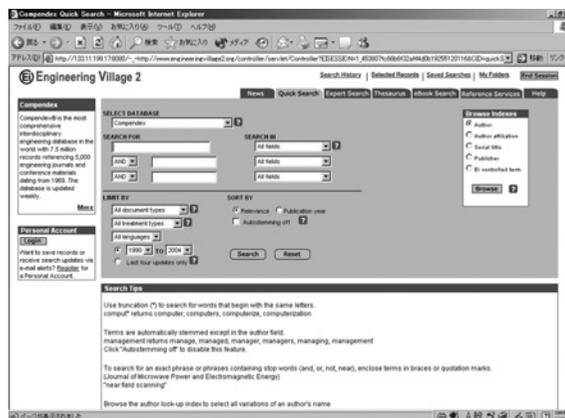


図1 初期画面

(2) 検索語句を 'SEARCH FOR' ボックスに入力し、**Search** をクリックします。

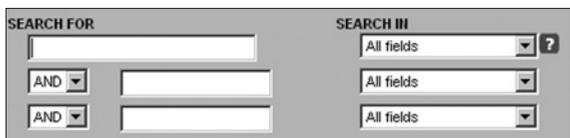


図2 検索語句の入力

“SEARCH IN”ボックスでは、検索の対象を特定のフィールドに限定できます。

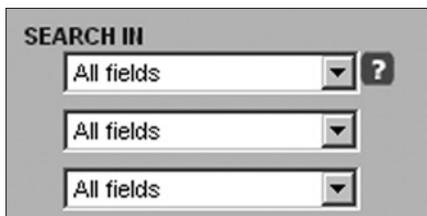


図3 検索対象の特定

(3) 検索制限について

検索の範囲を、文献タイプ (Document Type) ・取り扱いタイプ (Treatment Type) ・言語 (Language) ・開始年と終了年等で限定する事が可能です。



図4 検索制限

(4) 検索結果

検索結果は下記のように書誌情報のみの一覧で表示されますが “Abstract/Links”, “Detailed Record/Links” をそれぞれクリックすると、抄録を含む詳しい情報が表示されます。

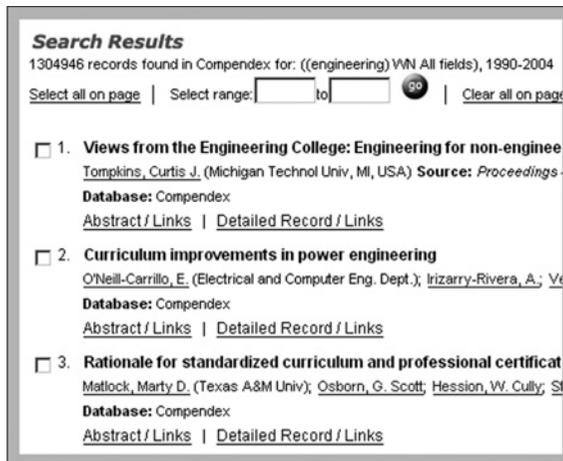


図5 検索結果

検索結果の表示順を指定したい場合は 'SORT BY' ボックスで指定ができます。



図6 表示順指定

(5) INDEX の利用

ブラウズしたい項目を 'Browse Indexes' で選択すると、それぞれの項目のインデックスのリストが表示されます。

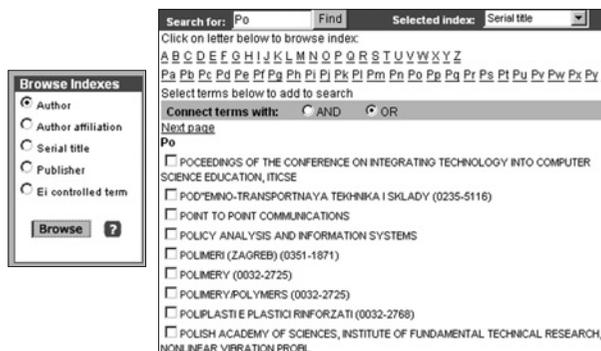


図7 INDEX、リスト表示

4. その他の機能

(1) 画面右上のメニュータブ、メニューバーを使って他の機能を選択することが可能です。



図8 メニュータブ、メニューバー

(2) シソーラスを利用した検索

各論文には統制語が付与されていますので、メニュータブの "Thesaurus" を利用して、検索の精度を上げることができます。

(3) 検索履歴

検索を行うと検索履歴が記録されますので、メニューバーの "Search History" をクリックして表示できます。

(4) ヘルプ画面

オンラインヘルプを利用する場合は、メニュータブの "Help" をクリックして利用します。

* "Expert Search" の方法、その他機能の詳細、マニュアル等については、下記 URL をご覧ください。

<http://japan.elsevier.com/products/ev2.html>

総合図書館ホームページが新しくなりました <http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/sogoto/>

- ? 書庫はどうやって利用するの
- ? 貴重書って閲覧できるの
- ? OPACを調べたいけど本はどこにあるの
- ? パソコンは使えるの
- ? 東大の歴史について調べたい



そんな総合図書館の疑問は新しいホームページで解決です。

新しい総合図書館ホームページは、利用案内や館内フロアマップを一一新し、よく聞かれる質問を解決できるように作成したユーザー・オリエンテッドなサイトです。

総合図書館を利用する際にはぜひご利用ください。

OPACボタン、プルダウンメニューの充実

利用案内を詳しく！ 申請書類もダウンロード

モバイル案内あり <http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/sogoto/m/>

コレクション情報の充実

レファレンスの充実 資料の探し方を掲載 よく聞かれる質問を掲載

館内案内(フロアマップ)を掲載

今月のカレンダーをトップに掲載

Helpful for using General Library!

柏図書館部分開館のお知らせ

柏図書館



柏キャンパスに新しく柏図書館が完成し、5月13日部分開館として一部サービスを開始しました。

柏図書館は柏キャンパスの中心的図書館として位置づけられ、また柏地区新領域創成科学研究科のホームライブラリーとしても機能します。

それではこのたびサービスを開始した部分を中心に柏図書館をご紹介します。

2 F サービスカウンター

利用登録、相互利用（複写、貸借）、参考調査など受け付けます。



2 F 複写コーナー

セルフコピー機を2台設置しました。東大生協のプリペイドカード専用機です。

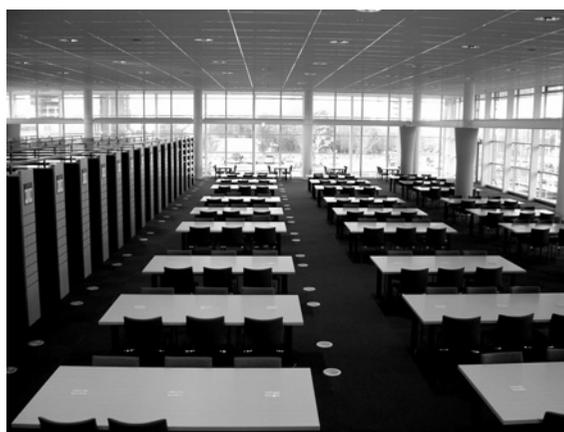
2 F 新聞コーナー

国内紙7紙を購読しています。

検索コーナー

PCを4台設置しました。蔵書検索、各種データベース、電子ジャーナル、eBook等がご利用になれます。

2 F 閲覧室



閲覧室は約230席あり、明るく開放的な空間となっています。現在約6,000冊の図書と雑誌約20誌が配架されています。

今後は、自然科学系の資料を中心に蔵書の充実に努めてまいります。なお、開架資料の利用は現在館内閲覧のみとさせていただいております。準備が整い次第貸出サービスを開始いたします。貸出サービス開始時には自動貸出返却装置も利用できるようになりますが、貸出サービス開始まで今しばらくお待ちください。

閲覧席には電源コンセントを全席に、情報コンセントも一部設置しました。また、

閲覧室内で無線LANの利用が可能です。閲覧席でのネットワーク利用には情報基盤センターへの登録が必要となります。このほか閲覧個室を7席設けてあります。

閲覧室南側の窓際にはロビーチェアを備えました。外の景色を眺めながらくつろいで本を読みたいかた方はこちらどうぞ。

1F ラーニングサポートサービス



情報基盤センター教育用計算機システム端末が15台(iMac 端末11台、VID 端末4台)設置してあります。開館時間中は自由にご利用になれます。

また、1Fにはロビー、コミュニティサロン、レストコーナーなどの憩いのスペースが多くあります。研究学習の合い間などにお気軽にお立ち寄りください。

eBook (netLibrary) サービス



ネットワークを活用した図書館を目指す柏図書館のオープンにあわせ、全学を対象

にeBookサービスを開始しました。

eBookは書籍を電子化し、ネットワークで閲覧できるものです。現在約4,000タイトルが学内から自由に検索や閲覧、印刷ができます。また、eBookにノートを書き込んだり、辞書も利用できます。

詳しい利用法や利用可能なタイトル一覧は、柏図書館のeBook紹介ページをごらんください。

<http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/kashiwa/eBook.html>

正式開館に向けて

今年秋には、現在工事中の自動化書庫(第1期50万冊収納)が完成し正式開館いたします。この自動化書庫は全学資料共同利用センターとして本郷、駒場キャンパスから自然科学系雑誌を移送、収容し(今年度は10万冊収容予定)学内外からの要求に応じ文献を電子化しネットワークで配送を行うe-DDS(電子的ドキュメントデリバリーサービス)システムを稼働します。このことにより、従来の紙媒体での配送に比べサービスのスピードアップが実現します。

また、その他のサービスについても準備が整い次第開始いたします。

サービスの内容につきましては下記ホームページを通じて随時お知らせしていきますのでご覧ください。

柏図書館では、上記eBookサービスやe-DDSシステムをはじめ、今後も新たなサービスの展開を行ってまいります。

秋の正式開館に向け、職員一同努力しております。新しい柏図書館に皆さんのご意見、ご要望をお寄せくださいますようお願いいたします。

柏図書館ホームページURL

<http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/kashiwa/>
お問い合わせ先

E-mail k-lib@lib.u-tokyo.ac.jp

6月～8月のデータベース定期講習会のお知らせ

英語編も
スタート!!

情報基盤センター-学術情報リテラシー係

会場：総合図書館 1階 メディアプラザI 講習会コーナー

定員：各回 12名です。(予約は不要です。時間までに会場へ直接集合してください。)

基本コース	入門コース	授業で指定された文献や参考文献リストに記載された文献の所在調査のテクニックを習得することを目的とします。OPACなど基本的なデータベースを使った実習を中心に、効率的な文献の探し方を紹介します。
	実践コース(1)	雑誌記事索引データベースをはじめ、各専門分野の文献データベースの検索実習を中心に、文献調査方法と電子ジャーナルの利用について紹介します。
実践コース(2) -Web of Science		引用索引データベース(Web of Science)の検索実習を中心に、文献調査方法と電子ジャーナルの利用について紹介します。
実践コース(3) -電子ジャーナル		代表的な出版社の電子ジャーナルの利用方法を紹介すると共に、各種データベースを用いた文献検索の実践演習を行います。

スケジュール (2004年6月～8月)

ご都合の良い時間帯を選んでどうぞご参加ください。(11:00-12:00、15:00-16:00、18:00-19:00)

月	火	水	木	金
5 / 31	6 / 1	6 / 2	6 / 3 15:00-16:00 実践(2)	6 / 4
6 / 7 11:00-12:00 実践(3)	6 / 8 英語編 15:00-16:00 実践(3)	6 / 9	6 / 10	6 / 11
6 / 14	6 / 15 18:00-19:00 基本	6 / 16	6 / 17	6 / 18
6 / 21	6 / 22	6 / 23 11:00-12:00 実践(2)	6 / 24 休館日	6 / 25
6 / 28 英語編 11:00-12:00 実践(1)	6 / 29	6 / 30	7 / 1	7 / 2 15:00-16:00 実践(3)
7 / 5	7 / 6	7 / 7 英語編 15:00-16:00 実践(3)	7 / 8 11:00-12:00 基本	7 / 9
7 / 12	7 / 13	7 / 14 18:00-19:00 実践(2)	7 / 15	7 / 16
7 / 19 休日	7 / 20	7 / 21	7 / 22 休館日	7 / 23
7 / 26 18:00-19:00 実践(3)	7 / 27	7 / 28	7 / 29	7 / 30
8 / 2	8 / 3 15:00-16:00 基本	8 / 4	8 / 5	8 / 6
8 / 9	8 / 10	8 / 11	8 / 12	8 / 13 18:00-19:00 実践(2)
8 / 16	8 / 17	8 / 18 11:00-12:00 実践(3)	8 / 19	8 / 20
8 / 23 18:00-19:00 基本	8 / 24	8 / 25	8 / 26 休館日	8 / 27

ご要望に応じた内容で出張講習会もいたします。授業やゼミ単位でお申し込みください。

お問い合わせ先 : 情報基盤センター-学術情報リテラシー係 (内線 22649)
literacy@lib.u-tokyo.ac.jp / http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/dl/koshukai

新規導入データベースのお知らせ

情報基盤センター学術情報リテラシー係

2004年4月より以下のデータベースを導入しました。GACoS : Gateway to Academic Contents System (<http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/dl/gacos/index.html>) からお利用いただけます (学内のみのご利用です)。

- * Web of Science 最新版 (Ver.6.1) (バージョンアップしました)
全分野の主要な学術雑誌 (約 9,000 誌) を対象とした引用文献データベース。
 - * BIOSIS Previews (農学部提供)
生命科学分野の学術雑誌 (約 5,200 誌) ・ 図書 ・ 会議録等を対象とした書誌データベース。
- (注) 上記 2 データベースは引用リンクをベースとした統合学術プラットフォーム ISI Web of Knowledge に搭載され、Pubmed, Agricola 等無料データベースとの横断検索も可能になりました。
- * Japan Knowledge
国内の百科事典 ・ 辞書 ・ 辞典を中心に構築されたデータベース。東洋文庫 ・ 週刊エコノミストの閲覧もできます。
 - * ProQuest Agricola Plus Text (農学部提供)
 - ・ AGRICOLA 農学に関連する幅広い資料を収録した書誌データベース。
 - ・ ProQuest Agricultural Journals 農学系雑誌 100 タイトルのフルテキストデータベース。
 - * MASTER Library (法学部提供) 日本の法律情報データベース。
 - * Westlaw (法学部提供) 米国 ・ 英国 ・ カナダ ・ 香港 ・ E U の法律情報データベース。
 - * Literature Resource Center with MLA International Bibliography (文学部 ・ 情報基盤センター提供) 文学に関わる人物、作品情報などを収録したデータベース。
 - * InfoTrac Custom 人文社会系学術雑誌 250 タイトルのフルテキストデータベース。

「附属図書館ホームページ」(URL: <http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/>) もご覧ください。

編集室 だより

法人化に移行して3ヶ月が過ぎようとしています。利用者の皆様、特に2年生以上の方はその変化をどのように感じ、受け止めていらっしゃるのでしょうか。

図書館も変貌して行きます。ますます便利に、さらに使いやすく、充実した図書館を目指しています。前号のオリエンテーション特集号を良くお読みになり、図書館を自由自在に使いこなし、思う存分に利用して頂きたいと思います。

(梅沢)

東京大学附属図書館報「図書館の窓」Vol.43 No.3 (通巻 417 号) 2004年6月1日発行
 発行人 笹川郁夫 編集委員 委員長・高橋努 副委員長・佐藤千春
 委員 石川真樹・羽野敦子・梅沢耕助・森松富美子・胡内奈都子・石川一樹
 東京大学附属図書館発行 〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1 電話 03(5841)2612